

ES 経営は万国共通

四国経済連合会常任理事(三浦工業㈱社長) 高橋 祐二



松山に赴任して早いもので、三年半が過ぎました。赴任して四カ月目に前社長から社長就任の要請がありましたので、この三月末で社長就任、丸三年となります。私は三浦工業㈱に入社以来、国内のメンテナンスや営業の現場経験がなく、ものづくりや本社スタッフの仕事、海外の状況等、知らない事ばかりでしたので、私に社長が務まるか不安もありましたが、わが社の社是『我々はわが社を最も働きがいのある最も働きやすい職場にしよう』を経営の軸とし、『CS(顧客満足度)向上のためにES(従業員満足度)を優先する』を最優先経営方針に掲げて参りました。

社長就任後、国内約100箇所の拠点訪問を始め、『働きがいのある働きやすい職場』の環境作りを今まで以上に推進していく事を社員に訴え続けて、約二年半で全拠点を一巡しました。拠点訪問時には、社員の集まる、夕方の2時間程度の時間に、私の社長方針やビジョンについて、パワーポイントを使い、わかりやすい言葉で約1時間直接社員に語りかけています。その後、オフサイトミーティングのような気楽な質疑応答の中から、社員に期待する事を伝えています。今後も、直接、私の口から社員に語る事が相互信頼を築きあげていく第一歩だと考え、継続していきたいと思っています。また、昨年より外部機関による社員満足度のアンケート調

査も開始しました。社員満足度調査を行う事は、社員に調査結果を経営に活かして行く事を宣言する事であり、今後も調査を定点観測する事でES向上の指標にしたいと考えています。

また、二年前から国内だけでなく海外現地会社の拠点訪問も始めました。私は、現地会社の社員が、日本の親会社の社長である私の考え方を直接、聞ける事は大いに士気があがる事だと思っていますし、国により文化や国民性は大きく違うがゆえに、日本の製造業が世界市場で成功している背景は何かを教える事も大事だと考えています。つまり、目先の利益ではなく、会社や個人の将来像を描き、その目標に集団で立向っていく事が、人を育て良い商品を作り、その結果、働いて良かったと云える会社を創り、社員の物心両面の幸せにつながるという成功論理の思考回路を持ってもらうということです。社員の自立的な成長なくして、会社の成長はありません。昨年からは、松山で海外社員のマネージャー研修も始めました。将来、現地会社の経営者に育ってもらうために、定期的に世界から集まってもらい、日本式経営を知る機会を与えています。

美しい日本の中でも特に美しい瀬戸内にある松山に、また研修に行きたいと思ってもらえるように、繰り返し繰り返しES優先の日本式経営を体感させていきたいと考えています。